

道徳科学習指導案

令和3年11月16日（火）第5校時
2年1組（教室） 指導者

〈授業改善の視点〉

くまくんが、穴に落ちたねずみくんを助ける場面で、宝物を手放してまで、ねずみの子を助けたかった気持ちを考え、発表場面での切り返しの発問を行い、ねずみの子のことを考えての行動であったことを明確にすることで、人には困っている人を助けたいという心があることに気づき、周りの人に温かい心で接し、親切にしたいという心情を育てることができるであろう。

1 主題名 あたたかいところ 教材名「とくべつなたからもの」[B-（6）親切、思いやり]

2 目標

幼い人や友達に温かい心で接して、困っていることを理解し、親切にすることで、自分も喜びを感じ、自分にできることを進んで行おうとする心情を育てる。

3 学びのつながり

・本題材は、学習指導要領「特別の教科 道徳」第1・2学年の内容「B 主として人との関わりに関する事」の「（6）身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。」に基づく。

・東連携型小中一貫校の「特別の教科 道徳」の指導の重点

○議論を通して、多様な考え方に触れさせたり、自身の考え方を振り返らせたりする。

【これまでの学び】

【ここでの学び】

資料「とくべつなたからもの」を活用し、相手の立場に立って行動することの大切さについて考えることを通して、自己中心的な考え方の身勝手さに気付いたり、他者との人間関係を深めたりすることについて考えさせたい。また、自分の宝物を手放してまで、ねずみの子を助けた時の気持ちを考えさせたり、発表場面での切り替えしの発問を行い、ねずみくんのことを考えての行動であったことを明確にしたりすることで、本当の「温かいところ」とは何かについて考えさせたい。

【このあとの学び】

ここで学んだ、身近な人に温かい心をもって親切にしようとする気持ちは、休み時間等で1年生と一緒に遊んだり、なかよし集会で、優しく面倒を見たりできるようにつなげていきたい。また、3年生では、本単元での学習を生かし、教科書資料「わたしのしたこと」では、親切とおせっかいの違いに気づき、相手の立場や気持ちを考えて、どのような心が親切に結びついているかを考えていく。

4 指導方針

〈導入の過程〉

・5月に行った「1年生と遊ぶ会」で、入学して間もない1年生のことを考え、優しい気持ちをもって、遊びやルールをグループで一生懸命考えたことを思い起こさせることで、価値への方向付け、道徳的価値に対する問題意識をもたせる。

〈展開の過程〉

・くまくんが宝物を見つける場面では、かばんが葉っぱやどんぐりなどの宝物でいっぱいになった時の喜びに共感させるとともに、大事な宝物であることをしっかり押さえ、中心発問につなげていきたい。また、事前に子どもたちに聞いた自分の宝物を紹介することで、宝物は人それぞれ違って、その人にとっては大事なものであることも押さえておく。〈他者理解〉

・穴に落ちていたねずみくんをくまくんが助ける場面では、助けたときの気持ちを伝え合うことで、たとえ見ず知らずの人でも、人には困っている人をほおっておけない心が誰にでもあることに

気付かせたい。〈他者理解〉

・くまくんが、宝物を捨ててねずみの子を助ける場面では、大事な宝物を手放してまで、ねずみの子を助けようとしたときの気持ち考えさせることで、くまくんに自我関与しながら葛藤する気持ちを素直に表現させたい。【自己決定】

また、考えた気持ちを発表させる際、ネームプレートを活用し、同じような気持ちを書いた子もその下に貼っていく。【自己存在感】、【共感的人間関係】〈他者理解〉〈人間理解〉

さらに、子どもから出た多様な考えに対し、心を揺さぶる切り返しの発問を行うことで、本時の価値理解を深める話し合いができるようにする。

〈終末の過程〉

・ねずみくんを助けた後の場面では、資料から離れ、自分事として価値に対して考えられるよう、設定しためあてに対する振り返りに取り組ませることで、学びの実感をもたせたい。本授業を通して、「1年生と遊ぶ会」のような学習の場面だけではなく、日常生活でも身の回りの人に思いやりの心をもって接しようとする気持ちを高めさせたい。〈自己理解〉

5 人権教育との関わり

近年、人と人との触れ合いが減り、他人には干渉せず、関わりをもちたがらない風潮が見られる。これらの一因として、「個」や「権利」が尊重されるようになり、良かれと思ってしたことが、かえって余計なことと捉われ、声掛けや助け合いという気持ちが薄れてきている。

低学年では、友達や異学年の子と関わり合う中で、自分だけではなく、相手の立場や気持ちを考えて優しく接し、物事の善悪を公正・公平に判断できる学習をしていく必要がある。

そこで、本単元では、大事な宝物を手放してまで、ねずみの子を助けようとするくまくんの気持ちを考えることで、命の尊さに気付かせ、自分のことより友達や年下の子を大切にするという心に共感させたい。また、自分にできることを考えて、宝物より人の命を優先する判断力を身に付けられるようにする。

中学校区では、9年間を見通した人権教育の主題を「自己肯定感を高め、他者を認めることのできる児童の育成」とし、その手立てとして生徒指導の3機能（自己決定、自己存在感、共感的人間関係）を授業に位置付けることとしている。本時の生徒指導の3機能は以下のように考えている。

課題解決などの中心場面で、自分の立場を明らかにして、黒板にネームプレートを貼ったり、ワークシートに自分の考えを書いたりする（自己決定）。また、自己決定したものを、隣の人やグループ、またはクラス全体の中で発表したり、根拠を説明したりして、自分も授業に参加しているという存在感を味わわせる（自己存在感）。さらに、友達の発表を聞く中で、自分の考えと比較し、共感したり共鳴したりしながらお互いを認め合い、学び合うことができる（共感的人間関係）。

6 本時の学習

（1）ねらい 宝物を手放してまで、ねずみの子を助けたかった気持ちを考えることを通して、身近な人に対して温かい心をもって親切にしようとする心情を育てる。

（2）つなぎ教材

① 教材名 ア：「1年生と遊ぼう」の写真やその時のワークシート
イ：児童の宝物をまとめた図（事前アンケートより）

② 目的 ア：1年生に思いやりの心をもって接した自分を思い起こさせ、温かい心へのイメージを膨らませるため。
イ：くまくんが宝物を手放す時の葛藤と自我関与させるため。

③ つなぎ方 ア：導入で、1年生の事を思いやりながら遊びを考えたこと振り返ることで価値への方向付けを行う。
イ：くまくんが宝物を手放す場面で、くまくんだけでなく、誰にでも困った人をほおっておけないという心があることに気付かせられるようにつなぐ。

(3) 展開

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の反応 ◎学びのつながり ※授業中の生徒指導の3機能	時間	指導と評価
導入	<p>1 生活科で学習した「1年生と遊ぼう」を振り返る。</p> <p>○どんなことに気を付けて取り組みましたか。</p>	<p>◎どんなことに気を付けて取り組んだかを思い出し発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生を楽しませようと遊びを考えた。 ・1年生でも分かりやすいようにルールを考えた。 	5	<ul style="list-style-type: none"> ・「1年生と遊ぼう」のときの写真や振り返りを紹介する。 ・1年生の気持ちを考えて優しくしたことを思い出しながら、温かい心について考えていくことを捉え、価値への方向付け、道徳的価値に対する問題意識をもたせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>めあて あたたかいところとはどんなところか考えよう</p> </div>				
展開	<p>2 資料「とくべつな たからもの」を読み、温かい心について考える。</p> <p>○かばんの中が宝物でいっぱいになったとき、くまくんはどんな気持ちだったでしょう。</p>  <p>◎宝物を手放してまで、ねずみの子を助けようとした時のくまくんの気持ちを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに書いて発表する。 ・同じ考えに挙手をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・とてもうれしいな。 ・ずっと大事にしよう。 ・帰ったらお母さんに見せたいな。 ・一生懸命集めてよかった。 <p>※個々の意見にネームプレートを貼る。【自己存在感】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ねずみの子がかわいそうでこのままほっとけないよ。 ・宝物は、また探せばいいから、ねずみの子を早く助けよう。 ・せっかく集めた大事な宝物を捨てるなんてもったいないなあ。 ・宝物とねずみの子はどちらも大事だし、どうしよう。 <p>※ワークシートに書いた考えを発表させ、同じ考えに挙手をさせる。ネームプレートも活用する。</p> <p>【自己決定】【自己存在感】</p> <p>※自分の考えと比べながら、発表者の話をしっかり聞かせる。</p> <p>【共感的人間関係】</p>	25	<ul style="list-style-type: none"> ・かばんと宝物をイメージしやすくするために、同じようなかばんを用意し、宝物でいっぱいになるところを見せる。 ・事前に聞いた子どもたちの宝物の一覧を掲示し、宝物は人それぞれ違っても、どれも大事なものであることを押さえる。 ・宝物を手に入れた時のうれしさやいっぱいになった時の喜びに共感させるとともに、くまくんにとって大事な宝物であることをしっかり押さえ、中心発問につなげていく。 ・多様な考えに対して、心を揺さぶる切り返しの発問をすることで、価値理解を深められるようにする。 ・くまくんがしたことは、ねずみの子のことを考えた行動であることを押さえ、くまくんだけでなく、誰にでも困っている人をほうっておけない、助けたいという気持ちがあることに気付かせる。 

<p>終末</p>	<p>3 めあての振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートに書いて発表する。 これからの自分の行動について考える。 <p>○これから1年生に対し、どのように接していきたいですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 思いやりの気持ちをもつ。 相手の気持ちを考えてやさしくする。 人に親切にする。 助け合う。 <ul style="list-style-type: none"> 困っていたら助けてあげたい。 もっと優しくしてあげたい。 一緒に遊んであげたい。 	<p>15</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分事として、めあての振り返りをさせる。 机間巡視をして、振り返りがきちんとできている子を把握し、発表させる。 <ul style="list-style-type: none"> 学習の場だけでなく、日常生活でも年下を含めた身の回りの人に思いやりの心をもって親切にしようとする気持ちを高めさせる。
-----------	---	--	--

(2) 評価

- 一生懸命集めた宝物と引き換えにしても、ねずみの子を助けようと決心するくまくんの気持ちを多面的・多角的に考えることができたか。(ワークシート、発言)
- ねずみの子からもらった宝物に対して、くまくんの気持ちや思いを想像することで、親切にすることに喜びを感じ、自分の体験と照らし合わせ、これからも親切な行動をしようとしているか。(ワークシート、発言)

板書計画

ふりかえり

あいたたかいこころとは

早い手の気もちを考えてやさしくする。
なかよくたすけ合う。
思いやりの気もちをもって親切にする。

これまで
「二年生とあそぼう」で一年生を楽しませるためにあそびを考えた

写真

写真

とくべつなたからもの

かばんの中がたからものでいっぱいになった時、くまくんはどんな気もちだったでしょう。とてもうれしい。

ずっとだいにしよう。
帰ったらお母さんに見せよう。
いっしょけんめいあつめてよかった。

くまくににとつて、はっぱやどんぐりは、だいになたからもの

ねずみくん：…かなしい、さびしい
たすけてもらいたい

たからものを手ばなしてまで、ねずみの子をたすけようとした時の、くまくんの気持ちを考えよう。

早くねずみの子をたすけよう
たからものをすてるなんてもつたないいな
たからものねずみの子も大事だし、どうしよう

めあて

あたたかいこころとはどんなこころか考えよう。